

羅 針 盤

第 5 号

令和5年5月8日（月）



◆ 『いじめ（いのち）について考える日』

城陽中学校では、学校の教育目標の一つとして、「仲間を大切にし、相手の気持ちを考えられる人間に」を掲げて教育活動を展開しています。生徒の皆さんも十分に理解していることとは思いますが、「いじめは生命をおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為」です。仲間はすれや、冷やかし、あるいは、からかい、誹謗中傷、・・・、自分がされて嫌なことは、誰がされても嫌なことです。「いじめ」は、絶対に許されるべきことではありません。生徒の皆さんの誰もが、安全で安心して学校生活を過ごす権利を持っています。常に相手の立場に立って物事を考え、友だちが抱えている課題を自分の課題として捉えることや、時と場合によっては、学級や学年、学校の課題として考えることが何よりも大切なことです。課題の解決に向けて、共に考え、協力し、支え合えることが大事なことです。全ての人が持つ人権を守ることや、誰もが生きていく権利を有することを、当たり前のことではあるけれど、今一度しっかりと振り返りながら、考える時間を持ってもらいたいと考えています。また、併せて、「生命の尊さ」についても深く考える機会を持ってもらえればと思います。日頃の何気ない活動の中からも、時には思い悩むようなことは誰しもがあり得ることです。一人で悩みを重たく抱え込むのではなく、いつも近くにいてくれる人を信頼し、思い悩んでいることを話すことで、必ず解決する方法を見つけ出せると思います。生徒の皆さんの一人ひとりが、誰もがとても大切な存在であることに気が付いて、自分の存在価値を肯定的に捉えて、学校生活を過ごしてほしいと考えています。

保護者の皆さま、「いじめ問題」に限ることなく、ご家庭で何かお困りのことがありましたら、些細なことでも構いませんので、学校の方へご相談ください。学校にできることも、確かに限界はあるとは思いますが、保護者・地域の皆さまとしっかりと手を携えて、子どもたちにとってより良い教育活動や一人ひとりの子どもたちにとって少しでも多くの支援ができる活動を展開して参りたいと考えています。（校長 坂井 伸治）



◆ 重荷を抱いた胸は、打ち明ければ軽くなる

「重荷を抱いた胸は、打ち明ければ軽くなる」これは、ドイツの詩人シラーが、戯曲『ドン・カルロス』の中で述べられた有名な言葉です。相談しても無駄と決めてつけてしまって一人で悩み事を抱え込むのではなく、家族や友だちなど頼りにできる人に打ち明けることで心が軽くなるということを意味しています。自分一人の力では解決することが難しいことも、思い悩みながら時間（とき）を過ごすよりも、勇気を持って誰かに話を聞いてもらえるだけで随分と気持ちが軽くなり、救われることがたくさんあります。人間は、一人ひとりはとても弱い存在であり、周りにいてくれる気心のしれた仲間がどれほどたくさんいてくれるかが、安心できる環境をつくりだし、さあ今日も頑張ろうという気持ちをつくりだしてくれているはず。人に打ち明けることの大切さを教えてくれているこの言葉の意味を理解することで、周りの人たちとの関係性がより深い繋がりとなって、誰もが互いに協力しあえる人へと成長してくれることを心より願っています。

